



特別
イ 4
3163
32(1)



貴
14
3163
32(1)

和歌題林抄上之目錄

春之部

杜若 ^{十二}	油唐 ^十	三月 ^八	殘雪 ^八	立去 ^一
菖花 ^{十三}	雜 ^十	春曉 ^八	草 ^八	子 ^二
葵 ^{十三}	愛子鳥 ^十	青 ^八	梅花 ^六	葉 ^三
桂 ^{十三}	草 ^十	糸 ^九	柳 ^六	霞 ^三
瀨踏 ^{十三}	草 ^十	雨 ^九	早蕨 ^六	鶯 ^四
菖 ^{十四}	三月 ^{十三}	去 ^九	櫻 ^七	餘 ^四

卷一

目錄一

反之部

反廿五 首廿二 花廿八 餘廿八 葵十六 鷓十六

新十七 葛十七 菜十七 早十八 射十八 河十九

雨十九 孺廿 瞿廿 堂廿 鷄廿一

收廿二 月廿二 草廿二 蓮廿二 款廿二 蟬廿三

截廿三 室廿三 立廿四 涼廿四 泉廿五 扇廿五

蒸和後廿五

德之部

秋廿六 夕廿六 菜廿七 荻廿七 蔴廿七 花廿八

薄廿八 荊廿九 蘭廿九 鴈廿九 鹿卅 野卅

霧卅一 樵卅二 燂卅二 運卅二 月卅三

鷓卅五 鳴卅五 燂卅六 稻卅六 負卅六 鳥卅六

揚卅七 虫卅七 菊卅八 絮卅八 蒿卅九

冬之部

和歌集 卷之十一 同鏡二

初冬甲 落葉甲 雨甲 霜甲 霰甲 雪甲

寒芦甲三 冬草甲三 冬月甲四 千鳥甲四 冰甲五 水鳥甲五

網代甲六 神系甲六 鶯鳴甲七 炭竈甲八 埋火甲九 入道甲九

凍時祭甲 佛名甲 歲暮甲



和歌題林抄上

春

五言

あけのつれをよとふ海はあきかきかきとつらうと
よのつらうとつらうとあきかきかきとつらうと
あきかきかきとつらうとあきかきかきとつらうと
あきかきかきとつらうとあきかきかきとつらうと
あきかきかきとつらうとあきかきかきとつらうと
あきかきかきとつらうとあきかきかきとつらうと
あきかきかきとつらうとあきかきかきとつらうと
あきかきかきとつらうとあきかきかきとつらうと
あきかきかきとつらうとあきかきかきとつらうと
あきかきかきとつらうとあきかきかきとつらうと

八林上

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter, covering the right page of the manuscript.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter, covering the left page of the manuscript.

梅の香は冬にのみならず
春の初めにも感じ
梅の花は冬にのみならず
春の初めにも咲く
梅の葉は冬にのみならず
春の初めにも落ち

餘雪

雪の残るは冬にのみならず
春の初めにも見ゆ
雪の融けるは冬にのみならず
春の初めにも感じ
雪の積るは冬にのみならず
春の初めにも落ち

残雪

雪の残るは冬にのみならず
春の初めにも見ゆ

雪の残るは冬にのみならず
春の初めにも見ゆ
雪の融けるは冬にのみならず
春の初めにも感じ
雪の積るは冬にのみならず
春の初めにも落ち

芳草

いづれもさうさうわきまをいふはかたじけなく何
つわきの月かゝるなりなるわきまをいふはかたじけなく
いづれもさうさうわきまをいふはかたじけなく何
まはれそつわきまをいふはかたじけなく何
まはれそつわきまをいふはかたじけなく何
まはれそつわきまをいふはかたじけなく何
まはれそつわきまをいふはかたじけなく何

正月

くしんせい ぶつじんせい

かろま回りまわしつわきまをいふはかたじけなく何
いづれもさうさうわきまをいふはかたじけなく何
いづれもさうさうわきまをいふはかたじけなく何

あつめいさなつわきまをいふはかたじけなく何
あつめいさなつわきまをいふはかたじけなく何
あつめいさなつわきまをいふはかたじけなく何

世系

あつめいさなつわきまをいふはかたじけなく何

あつめいさなつわきまをいふはかたじけなく何
あつめいさなつわきまをいふはかたじけなく何
あつめいさなつわきまをいふはかたじけなく何
あつめいさなつわきまをいふはかたじけなく何
あつめいさなつわきまをいふはかたじけなく何

春雨

あつめいさなつわきまをいふはかたじけなく何
あつめいさなつわきまをいふはかたじけなく何
あつめいさなつわきまをいふはかたじけなく何

ちよとほむまはさしうへるらんうらひつあかしのこ
ふさいえわりしうあつめいさうらひくあとかはま
こらん林のしううかかんしよものしうちんあま
うやなるらんたふういそくおととらうへ
まらんねるうかめあまねひよりいあつた
うまかたよのあまのしよあまのしよあまのしよ
かつたつてあまのしよあまのしよあまのしよ

維

まいも しんじ

うらのしよあまのしよあまのしよあまのしよあまのしよ
うへるらんたふういそくおととらうへ
まらんねるうかめあまねひよりいあつた
うまかたよのあまのしよあまのしよあまのしよ
かつたつてあまのしよあまのしよあまのしよ

愛子鳥

うらひつあかしのこ
ふさいえわりしうあつめいさうらひくあとかはま

ちよとほむまはさしうへるらんうらひつあかしのこ
ふさいえわりしうあつめいさうらひくあとかはま
こらん林のしううかかんしよものしうちんあま
うやなるらんたふういそくおととらうへ
まらんねるうかめあまねひよりいあつた
うまかたよのあまのしよあまのしよあまのしよ
かつたつてあまのしよあまのしよあまのしよ

苗代

うらひつあかしのこ
ふさいえわりしうあつめいさうらひくあとかはま

いふはるの春のさかすかに
今しはるの春のさかすかに
いふはるの春のさかすかに
いふはるの春のさかすかに

蛙 春のさかすかに

いふはるの春のさかすかに

いふはるの春のさかすかに

躑躅 春のさかすかに

いふはるの春のさかすかに

いふはるの春のさかすかに
いふはるの春のさかすかに
いふはるの春のさかすかに
いふはるの春のさかすかに

若草 春のさかすかに

いふはるの春のさかすかに
いふはるの春のさかすかに
いふはるの春のさかすかに
いふはるの春のさかすかに

かゝるのまの暮しは三月あともむく
かゝるのまの暮しは三月あともむく
かゝるのまの暮しは三月あともむく
かゝるのまの暮しは三月あともむく

文

文衣

文衣 ひんがしと 文衣

かゝるのまの暮しは三月あともむく
かゝるのまの暮しは三月あともむく
かゝるのまの暮しは三月あともむく
かゝるのまの暮しは三月あともむく

かゝるのまの暮しは三月あともむく

かゝるのまの暮しは三月あともむく
かゝるのまの暮しは三月あともむく
かゝるのまの暮しは三月あともむく
かゝるのまの暮しは三月あともむく

首書

かゝるのまの暮しは三月あともむく
かゝるのまの暮しは三月あともむく
かゝるのまの暮しは三月あともむく
かゝるのまの暮しは三月あともむく

かゝるのまの暮しは三月あともむく
かゝるのまの暮しは三月あともむく
かゝるのまの暮しは三月あともむく
かゝるのまの暮しは三月あともむく

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or document.

照射

Main body of handwritten text in a cursive script, consisting of approximately 12 lines.

Second main body of handwritten text in a cursive script, consisting of approximately 12 lines.

鴨河 者井

Final section of handwritten text in a cursive script, consisting of approximately 12 lines.

あはれなるかたがたのうらみはなほなほ
とほのうらみはなほなほなほなほ
とほのうらみはなほなほなほなほ
はなほなほなほなほなほなほ
らりやういふはなほなほなほなほ
ぬふまのうらみはなほなほなほなほ

鶯

あはれ ぬふま

ほろろふのうらみはなほなほなほなほ
ぬふまのうらみはなほなほなほなほ
とほのうらみはなほなほなほなほ

あはれなるかたがたのうらみはなほなほ
とほのうらみはなほなほなほなほ
とほのうらみはなほなほなほなほ

あはれなるかたがたのうらみはなほなほ
とほのうらみはなほなほなほなほ

水鶏

あはれ ぬふま

あはれなるかたがたのうらみはなほなほ
とほのうらみはなほなほなほなほ
とほのうらみはなほなほなほなほ
あはれなるかたがたのうらみはなほなほ

よりのふももぬらうやうまゝにわたりき
 まよわのけりかたしあやう花いとおぼしき
 うにもあわのちろとよむ海一
 蓮葉のよりのよきまぬふとあいたあやうのいづく
 風吹かもしれうきとて涼しくぬむくものよ

夕顔

夕顔

あやれ志のつかひのたふさく花のりくく
 きく夕はあよむらうきくふあやう
 夕顔よんかちかたふしなるよむ
 ふあふきしあそむるあやう夕顔の飛

うら海とらうの神さよしくよのいひかた花

蟬

夏
 夏の羽衣
 夏の衣

夏のいひあふよくたふさく海とら
 えくかきうらひあやうのあやうむら
 かのうらあむらうあひいひかた
 夏のいひあふよくたふさく海とら

截虫

夕顔よんかちかたふしなるよむ
 夕顔よんかちかたふしなるよむ

あはれしむるくしをなるとしむる
目くしの雪はくまの白くしをなるとしむる
くまの雪はくまの白くしをなるとしむる

氷室

目じり ひじり
まじり

目じりちよれよまの白くしをなるとしむる
あはれしむるくしをなるとしむる
目くしの雪はくまの白くしをなるとしむる
くまの雪はくまの白くしをなるとしむる
あはれしむるくしをなるとしむる
目くしの雪はくまの白くしをなるとしむる
くまの雪はくまの白くしをなるとしむる

夕立

あはれしむるくしをなるとしむる
目くしの雪はくまの白くしをなるとしむる
くまの雪はくまの白くしをなるとしむる
あはれしむるくしをなるとしむる
目くしの雪はくまの白くしをなるとしむる
くまの雪はくまの白くしをなるとしむる
あはれしむるくしをなるとしむる
目くしの雪はくまの白くしをなるとしむる
くまの雪はくまの白くしをなるとしむる

霧よんよんかゝる海をいかにかきこむらん花をまら
りともひり男はよもみ人かゝる海よもみらん
かゝる海をいかにかきこむらん花をまら
いかにかきこむらん海をいかにかきこむらん
世に花をいかにかきこむらん海をいかにかきこむらん
かゝる海をいかにかきこむらん花をまら

薄

花をいかにかきこむらん海をいかにかきこむらん
かゝる海をいかにかきこむらん花をまら
いかにかきこむらん海をいかにかきこむらん
世に花をいかにかきこむらん海をいかにかきこむらん
かゝる海をいかにかきこむらん花をまら

人よもみらん海をいかにかきこむらん花をまら
浪よもみらん海をいかにかきこむらん花をまら
いかにかきこむらん海をいかにかきこむらん
世に花をいかにかきこむらん海をいかにかきこむらん
かゝる海をいかにかきこむらん花をまら

菊

風よもみらん海をいかにかきこむらん花をまら
うもみらん海をいかにかきこむらん花をまら
うもみらん海をいかにかきこむらん花をまら
うもみらん海をいかにかきこむらん花をまら

蘭

からい海

我があはれなるも地はひらり神よりかぶとさうさうあ
えくのまことみえくまの森のうへにたつあま

霧

あまのり　ゆふ霧　秋のり　うらまのり
うらまのり　ひら　いせ　さか　いひ
うらまのり　うらまのり　うらまのり

うらまのり　うらまのり　うらまのり　うらまのり
ひらのり　うらまのり　うらまのり　うらまのり
うらまのり　うらまのり　うらまのり　うらまのり
うらまのり　うらまのり　うらまのり　うらまのり
うらまのり　うらまのり　うらまのり　うらまのり

あまのり　うらまのり　うらまのり　うらまのり
うらまのり　うらまのり　うらまのり　うらまのり
うらまのり　うらまのり　うらまのり　うらまのり
うらまのり　うらまのり　うらまのり　うらまのり
うらまのり　うらまのり　うらまのり　うらまのり

控

あまのり　うらまのり　うらまのり　うらまのり
うらまのり　うらまのり　うらまのり　うらまのり
うらまのり　うらまのり　うらまのり　うらまのり
うらまのり　うらまのり　うらまのり　うらまのり
うらまのり　うらまのり　うらまのり　うらまのり

煉夕

こころをこころとていふは
こころをこころとていふは
こころをこころとていふは
こころをこころとていふは
こころをこころとていふは

稲垣島

秋らもあつた
おぼくもあつた
おぼくもあつた
おぼくもあつた
おぼくもあつた

栲衣

こころをこころとていふは

こころをこころとていふは
こころをこころとていふは
こころをこころとていふは
こころをこころとていふは
こころをこころとていふは

虫

こころをこころとていふは

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or a personal journal entry. The text is written in a single column on the right page of the open book.

冬

初冬

Handwritten text in a cursive script, continuing from the right page or as a separate entry. The text is written in a single column on the left page of the open book.

落葉

落葉

うのひ ふりさき

あらしは 220k

本にぬれ雷と花よまうし秋の海よこしはうら
にほろこしうらこいふにうらこいふにうらこいふに
もあまのうらこいふにうらこいふにうらこいふに
まうまうふらう雷がまもたをうらこいふにうらこ
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに

あまのうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに

寒芦

あまのうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに
うらこいふにうらこいふにうらこいふにうらこいふに

冬の池のうへに水はあつたてのうへに水はあつた

水

水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた

水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた

水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた

水

水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた

水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた
水はあつたてのうへに水はあつた

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. The script is dense and fills most of the page.



卷之五

五十一

SXIR

